

私は一介の牛飼い。 — 町村敬貴の挑戦 —

2017年、町村農場は創業1000年を迎えました。

1917年(大正6年)、石狩の大自然の中で始まった一人の牛飼いの「土づくり、草づくり、牛づくり」は、日本近代酪農の道標となりました。

「町村農場」創業者の町村敬貴は生まれながらにして牛飼いであった。1876年(明治9年)米国人エドウィン・ダンが北海道で初めてつくった官営農場 真駒内牧牛場。初代の場長は父の金弥でした。小さな頃から牧場のなかで牛と一緒に育ち、牛に魅了された少年敬貴の心には酪農家になる夢が芽生えます。

1906年(明治39年)札幌農学校(現・北海道大学)を卒業後、ただちに酪農の先進地・米国に渡り、10年間をウイコンシン州の農場で「牧夫」として経験をつみました。帰国後、石狩・江別で農場を開き、「酪農は草づくりが基本」を実践するなど、米国で学んだ知識と経験を駆使して酪農経営に励みました。

さまざまな苦難を乗り越え、あきらめることなく努力を続け「近代酪農の礎」を築き上げた敬貴。「とにかく牛と接すると気分が爽やかになる」と語り、一介の牛飼いとして生涯現役で働き通した人生でした。

苦労は覚悟すると楽しくなる。

仕事は本當に「つらかったが、気持ちは苦しくなく、むしろ愉快だった。俺はこういう苦労をしにわざわざ米国にやって来たのだ」という信念があったからである。

1906年(明治39年)札幌農学校を卒業後単身渡米。ウイコンシン州ウエストアリスの牧場に牧夫として酪農を実習。4年後ウイコンシン州立農科大学入学。1913年(大正2年)同校卒業。



牛舎前の創業者

私は一生ここを動かさない。

ここまで荒れ果てた大地を健全な土に蘇らせて、新しい時代に道標を示すことが、天の与えた試練であり、親子二代に渡る酪農家の使命だ！

1927年(昭和2年)さらなる地の利を求め江別町対雁に移転。しかしその地は半世紀にわたり肥料を与えず、作物を取るだけ取った再起不能な土地だった。排水が非常に悪く、酸性が強い土。敬貴は暗渠排水と消石灰による酸性土壌の改良に邁進しました。

1927



旧町村農場前庭園風景

土づくり、草づくり、牛づくり。

優秀な牛をつくりだすために必要なのは、飼料である。よい牧草をつくるためには肥沃な牧場をつくりあげること。つまり、土づくりが先決問題である。牛づくり、草づくり、土づくりは三位一体、不可分のものなのだ。

1937

1937年(昭和12年)江別町対雁に移転して10年。米国で学んだ理念は農場経営の柱としてようやく実現の道を歩み始めました。土までに立ち返って農を極める姿勢は現在にも引き継がれ、自主独立の経営を推し進めています。



旧町村農場入口

まずはよい草をつくる。

はたしてここで牧場を経営しても成功するかどうか皆目わからないが、私は私なりに肝が据わっていた。10年間は米国で学んだことを復習し、牧草に適した土地の改良に集中した。

1917年(大正6年)敬貴が入植した石狩町樽川は、地力が低い泥炭地で乳牛飼育に適する牧草をつくるため土地改良を積極的に進めた。4年目から乳牛を入れバタリー製造も始められるようになった。

1917



晩年の創業者



牛に接すると筋金が通る。

牛というのは何でもないとはいえ、何でもないとはいえない。牛に接して「もうこれで良い」ということはない。牛舎を歩いていると精神が統一されるような気持ちになる。

敬貴はホルスタイン種の登録、能力検定事業などにも貢献。1944年(昭和19年)北海道ホルスタイン農業協同組合、北海道種牛協会を設立するなど、ホルスタイン種飼育農家の団体組織の結成に尽力しました。

1944



旧町村農場寝床掃除

開拓者の想い。今もお届けしています。

牛が食べる牧草は、
私たちが育てます。

農場の牛たちが生産する有機肥料を基本に、栄養たっぷりの草づくりをしています。

牛にはゆったりと
暮らしてもらいます。

おいしい牛乳のために、ストレスの少ない静かな生活環境を提供しています。

搾った牛乳は
すみやかに食卓へ届けます。

農場敷地内のミルクプラントで搾りたてを加工し、そのまま食卓へお届けします。

町村農場 ミルクガーデン
江別市篠津183番地
TEL.011-375-1920

町村農場 円山
札幌市中央区南1条西27丁目1 マルヤマクラス 1F
TEL.011-688-6255

町村農場 藻岩
札幌市南区川沿2条2丁目 イオン札幌藻岩店 1F
TEL.011-572-4977

町村農場 大通公園
札幌市中央区大通西3丁目7番地 大通ピット 1F
TEL.011-211-5029

町村農場
MACHIMURA FARM

〒067-0055 江別市篠津183番地 TEL.011-382-2155

町村農場オンラインショップ
<http://machimura.jp>